

セイタカシギ *Himantopus himantopus* (Linnaeus)

【選定理由】

主に春と秋の渡り時期に伊勢湾、三河湾沿岸部の淡水湿地に渡来し、一部は水たまりなどで越冬し年によりごく少数が繁殖する。沿岸域の淡水湿地は少なくなっており、繁殖環境も安定していないため絶滅の可能性が増大している。

【形態】

全長 35～40cm。雄は、背と翼は緑色光沢のある黒色で、そのほかは白色。頭部は白色のものと頭頂から後頸にかけて黒色のものがあり、黒色部の形状は変異がある。雌は、背が褐色味を帯びた黒色で、光沢はない。幼羽は、背が褐色で黄褐色の羽縁がある。脚はピンク色で非常に長く、嘴はまっすぐで細い。飛翔時は、背、腰、尾の白色が目立つ。



愛知県幡豆郡一色町, 1985年8月20日, 山本 晃 撮影

【分布の概要】

ユーラシア中部、アフリカ、インド、東南アジア、オーストラリア、北アメリカ中部から南アメリカと広く分布し、5～6亜種に分けられる。日本には主に春と秋の渡りの時期に渡来するが、繁殖、越冬もしている。東京湾沿岸の埋立地や水田で小規模な繁殖群が確認されており、越冬は、沖縄で比較的数量が多い。

県内では、伊勢湾、三河湾沿岸の農地や埋立地に生息し一年を通じて見られる。

【生息地の環境 / 生態的特性】

春期は4月から5月、秋期は7月から10月にかけて、沿岸部の淡水湿地に渡来し、単独から数羽の群で生息する。干拓地の農地や水路、埋立地にできた池の周辺など湿潤で草丈の低い草生地の上に営巣する。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

県内では、鍋田周辺、矢作川河口周辺、汐川干潟周辺で記録が多い。1975年に、鍋田付近の埋立地で日本で初めて繁殖が確認され、以降は当地周辺で数例の繁殖記録がある。1985年には矢作川河口周辺(一色町)、1989年には汐川干潟周辺(田原市)でも繁殖し、現在では最大で10番い程度の繁殖行動が推測されるが、湿潤な休耕田などの安定した繁殖環境が喪失したため繁殖の成功率は極めて低く、ほとんどが失敗する年も少なくない

【保全上の留意点】

水田、ため池を含む沿岸部の淡水湿地を保全し、繁殖環境の確保と創出に努める必要がある。

【関連文献】

緒方清人・杉山時雄・矢沢美智子・柿本 浩, 1986. 西三河鳥類目録 1985.12. 西三河野鳥の会, 岡崎.
桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, pp.250. 文一総合出版, 東京.